

# 清和高原の美しい空と保全活動が全国に認められました!!

## ～「星空の街・あおぞらの街」全国協議会長賞受賞～

第25回「星空の街・あおぞらの街」全国大会が、11月16～17日北九州市で開催され、清和高原天文台が全国表彰を受けました。

大会には、高円宮妃殿下のご臨席のもと、井上信治環境副大臣が出席され、清和文楽の里協会の坂本英博理事に表彰状と記念品が授与されました。

今回の表彰は、清和高原天文台が開設当初から天文台活動として、教育機関と連携しながら、光害問題や環境保全活動に取り組んだ実績が高く評価されたものです。

北九州市は、工業都市としての深刻な環境汚染の問題を克服し、エコタウン環境先進都市としての評価を受けています。



清和高原天文台は、山都町となってからも、オープン当初のままの自然環境と暗闇が町の財産といわれるほどの活動の広がりにも貢献しています。

これからも、綺麗な星空と地域とが一緒になった取り組みが期待されています。



# 菅地域振興会が農林水産大臣賞を受賞!

平成25年度豊かなむらづくり全国表彰事業（農林水産省・（公財）日本農林漁業振興会主催）で、菅地域振興会が農林水産大臣賞を受賞されました。

この事業は農林水産祭の一部門として開催されており、農山漁村におけるむらづくりの優良事例の表彰を行い、その業績発表等を行うことにより、むらづくりの全国的な展開を助長し、地域ぐるみの連帯感の醸成及びコミュニティ機能の強化を図り、農林漁業及び農山漁村の健全な発展に資することを目的として開催されています。

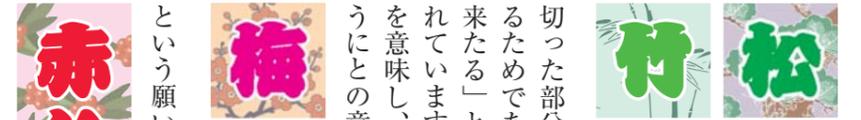


菅地域振興会は、棚田オーナー制度（平成8年開始）を始め、棚田ふれあい探訪ツアーの受け入れや茶園オーナー制度など地域づくりに向けた活動を積極的に行われています。また、棚田オーナーの一人菅純一郎さんが菅に縁側カフェ、里山レストランを開設、棚田米や家庭菜園で栽培した野菜を利用した食事の提供を行っており、都市住民との交流の場ともなっています。

自主的・主体的で、かつ、地域資源をうまく組み合わせて継続した取組を行っていることが評価されたようです。



正月と言って皆さんが思い浮かべるものは何がありますか。お餅、しめ縄、お年玉など。その中で誰もが思い浮かべるモノに門松があります。玄關に飾られている門松を見ると、新しい年がやってくると実感する人も少なくないのではないのでしょうか。



1年を通して青々と茂っていることから不老長寿を示しています。まっすぐに伸び、節目を刻むことから礼節を示しています。竹を節の部分で切るの切った部分が人の笑った口のように見えるためであり、ここから「笑う門には福来たる」という言葉が生まれたとも言われています。その三本の竹は「天・地・人」を意味し、全てのものに福が訪れますようにとの意味合いがあります。

冬を耐え春に先駆けて花を咲かせることから忍耐を示しています。つらい出来事を乗り越えて、花咲かせてほしいという願いが込められています。

子孫繁栄を願うこの季節に咲く縁起のいいのです。



また12月24日には、明光保育園園児による卓上サイズの門松づくり。村山さんに教えてもらいながら一生懸命作りました。竹が絶対倒れないようにしっかりと土台を固める園児も。出来あがった門松を見て、皆嬉しそうに笑顔が浮かべていました。



12月19日、御岳小学校6年生児童による門松づくり。作り方を教えてもらいながら10人の児童で作りました。1時間半程で完成した門松。実際に制作をした児童たちからは、「これまでは見ていただけだった門松を実際に作ってみると意外に難しかったけど楽しかった。門松の見方もまた違って見えてくると思う。」と話してくれました。

通潤山荘前の門松